



市川三郷町立

三珠中学校

落雷・竜巻等突風対策マニュアル

令和7年7月

はじめに

令和7年4月10日、奈良市にある学校のグラウンドに雷が落ちて部活動などをしていた中学生と高校生の男女6人が病院に搬送されるという事故が起きました。この事故によってグラウンドにいた中学生と高校生の男女合わせて6人が病院に搬送され、これを記している現時点においても1名が依然として意識不明の重体となっています。

グラウンドでは当時、部活動中の生徒や顧問の教諭がいて、搬送された6人のうち5人が所属しているサッカー部は顧問の指導のもとミニゲームをしていたとのこと……。サッカー部顧問は警察の聞き取りに「午後6時前に急に雨が強くなったと思ったら、いきなり雷の音がして、生徒が倒れた」と話したとのことでした。

どうすればこの痛ましい事故を避けることができたのか……。大切な生徒の命を預かっている学校としては、生徒・職員が二度とこのような悲劇に遭うことがないような対策を講じなくてはなりません。しかし、現在保有する本校の『学校防犯安全等マニュアル』には、雷等への対応が記載されておらず、今回、本マニュアルを作成することにしました。

学校の防犯安全等マニュアルの見直しは、生徒・職員の安全を確保する上で必要不可欠な作業であるとともに、実用的で実効性のあるものにしていきたいと強く願っています。今回作成した『雷・竜巻等突風対策マニュアル』によって、本校職員の誰もが迷うことなく適切な対応や行動がとれ、生徒・職員の安全・安心、及び保護者からの信頼につながれば幸いです。

令和7年7月

三珠中学校 校長 渡邊 康裕

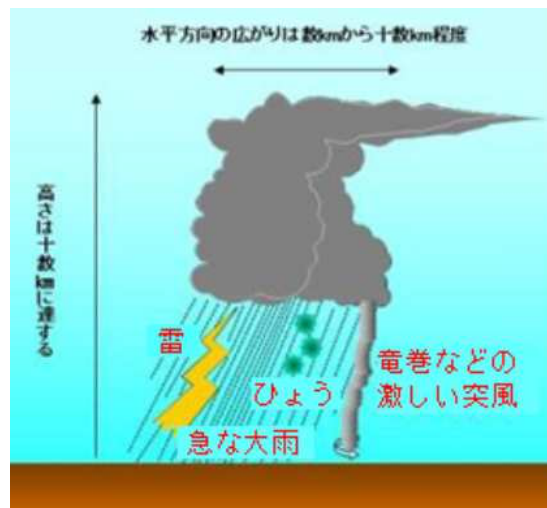


1. 積乱雲にともなう激しい現象と災害

積乱雲は、強い上昇気流によって鉛直方向に著しく発達した雲です。雲の高さは1万メートルを超え、時には成層圏まで達することもある巨大な雲です。夏によく見られる入道雲は積乱雲です。強い日射して地表面付近の大気が暖められ、上空に強い寒気が入ってきた場合は「大気が不安定な状態」となり、しばしば積乱雲が発生しやすい気象状況となります。



1つの積乱雲の水平方向の広がりには数kmから十数kmの大きさで、単独の積乱雲からもたらされる現象は、短時間(30分～1時間程度)で局地的な範囲に限られます。



一方で、発達した積乱雲により「急な大雨」「竜巻などの激しい突風」「雷」「雹(ひょう)」などの激しい現象が発生する場合があります。

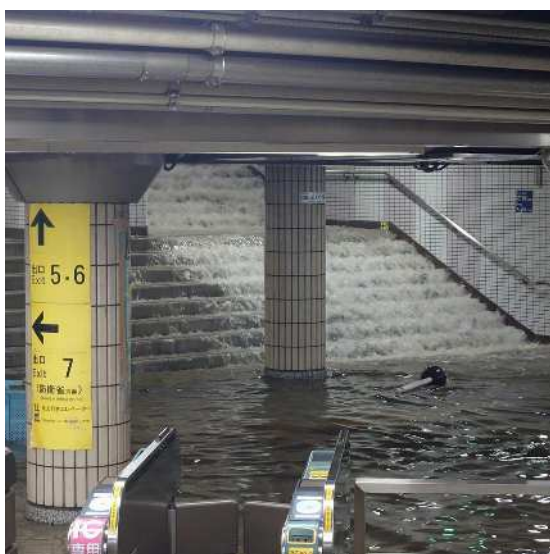


2. 積乱雲による災害の特徴

(1) 急な大雨による災害

発達した積乱雲がもたらす大雨は、雷をともなって短時間に狭い範囲で激しく降ります。降った雨は河川や低い場所に一気に流れ込むため、降り始めから十数分程度で中小河川が増水したり、低地や道路のアンダーパスが冠水し、災害が発生することがあります。

また、川の上流で降った大雨により急に増水し、大雨が降っていない下流で水難事故が発生することがあります。



↑地下に水が流れ込むと逃げられなくなります。



↑川の急な増水により、川原に残されたり、流されたりします。



↑兵庫県神戸市の都賀川では、上流で降った大雨によって水位が10分で1m30cmも上昇し、5名が流されて亡くなりました。(平成20年7月)

○急な大雨による災害例

発 生 日	災 害 の 状 況	発生場所
平成26年8月 1日	中洲のキャンプ場から増水した川を渡ろうとした車が流され、母子3人が死亡	神奈川県
平成21年8月19日	我部川の急な増水により、工事作業員が流され、4名が死亡	沖縄県
平成20年8月 5日	下水管内の急な増水により、工事作業員が流され、5名が死亡	東京都
平成20年7月28日	都賀川の急な増水により、遊びに来ていた児童らが流され、5名が死亡	兵庫県
平成20年7月27日	湯檜曾川の急な増水により、沢遊び中の観光客が流され、1名が死亡	群馬県
平成20年7月 8日	呑川の河道内での作業中、急な増水により作業員が流され、1名が死亡	東京都

(2) 雷による災害

雷は、積乱雲の位置次第で、海面、平野、山岳など場所を選ばず落ちます。また、周囲よりも高いものほど落ちやすいという特徴があります。

グラウンド、平地、山頂、尾根等の周囲の開けた場所にいると、雷雲から直接人体に落雷（直撃雷という）することがあり、直撃雷を受けると約8割の人が死亡します。

また、落雷を受けた樹木等のそばに人がいると、その樹木等から人体へ雷が飛び移ることがあります（側撃雷という）。木の下で雨宿りなどをしていて死傷する事故は、ほとんどがこの側撃雷が原因です。

遠くて雷の音がしたら、すでに危険な状況です。自分のいる場所にいつ落雷してきてもおかしくありません。



○落雷による災害例

発 生 日	災 害 の 状 況	発生場所
令和7年4月10日	部活動中のグラウンドに落雷。男子中学生1名が意識不明の重体	奈良県
平成26年8月6日	野球の練習試合中に落雷。マウンドにいて被雷した男子高校生が死亡	愛知県
平成26年6月16日	沖合3kmで操業中の漁船に落雷。男性1名が死亡	青森県
平成25年7月15日	沖合100mのいかだの上で釣りをしていた男性1名が死亡	広島県
平成25年7月8日	荒川の河川敷で樹木に落雷。木の下で雨宿りをしていた男性1名が死亡	東京都
平成24年10月17日	海上で真珠の養殖作業中に落雷。男性1名が死亡	愛媛県
平成24年8月18日	農道を1人でジョギングしていた男子中学生に落雷。意識不明の重体	滋賀県
平成24年8月18日	登山中に落雷。男性1名が死亡	槍ヶ岳
平成24年8月18日	樹木に落雷。木の下で雨宿りをしていた女性2名が死亡	大阪府
平成24年5月28日	尾瀬の登山道を歩行中に落雷。男性1名が死亡	群馬県
平成24年5月6日	樹木に落雷。木の下で雨宿りしていた母と娘(小学生)が被雷し、娘が死亡	埼玉県

(3) 竜巻による災害

竜巻は、日本では平均して年に約20個（2007年～2013年：海上竜巻を除く）の発生が確認されています。1つの市町村で見れば90年に一度程度の極めてまれな現象ですが、一度発生すると家屋の倒壊や車両の転倒、飛来物の衝突などにより、短時間で大きな被害をもたらすことがあります。また、積乱雲からはダウンバーストやガストフロントといった突風もしばしば発生し、竜巻と同様に短時間で大きな被害をもたらすことがあります。



竜巻による被害（平成24年5月 茨城県つくば市）

○日本における主な竜巻災害

発 生 日	災 害 の 状 況	発生場所
平成25年9月1日	負傷者76名 全壊32棟 半壊215棟	埼玉県・千葉県・茨城県
平成24年5月6日	死者1名 負傷者37名 全壊76棟 半壊158棟	茨城県常総市・つくば市
平成23年11月18日	死者3名 全壊1棟	鹿児島県徳之島町
平成18年11月7日	死者9名 負傷者31名 全壊7棟 半壊7棟	北海道佐呂間町
平成18年9月17日	死者3名 負傷者143名 全壊79棟 半壊348棟	宮崎県延岡市
平成11年9月24日	負傷者415名 全壊40棟 半壊309棟	愛媛県豊橋市



◎竜巻とは

竜巻とは、積乱雲または積雲にともなって発生する鉛直軸をもつ激しい渦巻きで、しばしば漏斗状または柱状（漏斗雲）をともなっています。また、竜巻の中心では周囲より気圧が低くなっていますので、地表面の近くでは風は渦に向かって内側に、普通は反時計回りの方向に回転しながらせん状に吹き込み、漏斗雲の中に急速に巻き上がっていきます。

◎竜巻とその被害の様子

青矢印は空気の流れ、緑矢印は樹木等の倒壊方向、白点線は竜巻の経路を表しています。竜巻の発生時にはしばしば積乱雲から漏斗状の雲がのびています。竜巻は周囲の空気を吸い上げながら移動しますので、倒壊物等は竜巻の経路に集まる形で残ります。



◎ダウンバースト

積乱雲から吹き降ろす下降気流が地表に衝突して水平に噴き出す激しい空気の流れ。吹き出しの広がり直径数百m～10km程度であり、被害地域は面的に広がる特徴がある。

◎ガストフロント（突風前線）

積乱雲の下で形成された冷たい空気のかたまりが、その重みによって周辺に流れ出ることによって発生する。水平の広がり竜巻やダウンバーストよりも大きく、数十km以上に達することもある。

3. 雷から生徒を守る具体的な手立て

(1) 雷ナウキャストの利用

生徒が屋外で活動する際、落雷の危険から生徒を守るための行動をとるかどうかの拠りどころの1つとして、「雷ナウキャスト」による判断を取り入れる。

「雷ナウキャスト」とは気象庁が発表している防災情報の1つで、雷の可能性や激しさ(活動度)を1時間先まで10分単位で予想します。雷の活動度を1～4の段階で示し、雷の可能性が高い地域や活動が激しい地域を特定します。

「雷ナウキャスト」確認用タブレットを職員室後方のホワイトボード前(右上写真の赤丸の場所)に常設し、生徒の屋外での活動(体育の授業・部活動・校外学習など)前に該当活動担当責任者(担当責任者は以下の表参照。担当責任者が授業に入っていたり、出張等で確認できない場合は担当責任者の責任において事前に代役を立てる)が確認し、活動の可否を判断する。可否の判断は以下の「雷ナウキャストの見方」を基準にする。

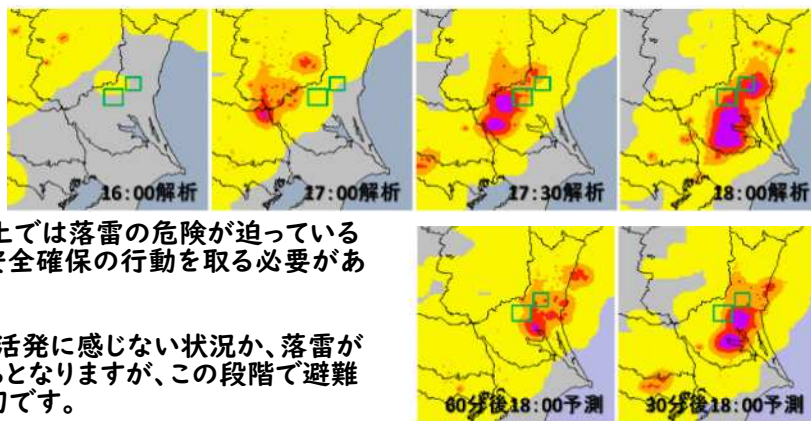
【屋外での活動とその活動の担当責任者】

活動	担当責任者
体育の授業	体育主任(河西)
部活動	屋外の部活動主顧問の内年長者(串松)
校外学習	学年主任
希珠祭体育の部練習	生徒会顧問(串松)
その他	その活動の責任者



◎雷ナウキャストの見方

雷ナウキャストでは雷の活動度を1～4の4段階に分けています。各活動度に対応して、被害を防ぐために取るべき行動は下表のようになっています。



活動度1～4に分けていますが、活動2以上では落雷の危険が迫っている状況なので、活動度2～4では直ちに身の安全確保の行動を取る必要があります。

特に活動度2は、雷が発生していてもまだ活発に感じない状況か、落雷が発生する直前という段階なので気を許しがちとなりますが、この段階で避難行動を取ることが被害を軽減させるのに大切です。

【雷ナウキャストの活動度の解説】

活動度	雷の状況	屋外において想定される対応	屋内や工場などで想定される対応
4	激しい雷 落雷が多数発生している。	●屋外にいる人は落雷の危険があるため、建物や車の中へ移動するなど、安全確保に努める。	●パソコンなど家電製品の電源を切り、コンセントを抜く。
3	やや激しい雷 落雷がある。	●屋内にいる人は外出を控える。	●工場の生産ラインなどリスクの大きい場所では、作業の中止や自家発電への切替などの対応をとる。
2	雷あり 電光が見えたり雷鳴が聞こえる。落雷の可能性が高くなっている。		
1	雷可能性あり 現在、雷は発生していないが、今後落雷の可能性はある。	今後の雷ナウキャストや空の状況に注意する。	

活動度2～4は、既に積乱雲が発生していて、いつ落雷があってもおかしくない状況です。

活動度1は、雨雲が雷雲に発達する可能性があることを表します。1時間以内に雷が発生する可能性があることを認識した行動が必要です。避難に時間がかかる場合は、活動度1の段階から早めの対応を心がける必要があります。

※ 活動度1～4になっていない地域でも、積乱雲が急速に発達して落雷する場合がある。

雷ナウキヤストを活用した三珠中の落雷を避けるために講じる対策

※運用期間 3月～10月 / 11月～2月の雷注意報が発令された日

活動内容	担当責任者	ナウキヤスト観のタイミング	雷活動度	対応	落雷防止のために講じる対策	30分先予測	落雷防止のために講じる対策
体育の授業（校庭）	体育主任	授業10分前	0	活動可	校内の職員*は30分おきにナウキヤストを確認する。	0	校内の職員*は30分おきにナウキヤストを確認する。
			1	活動可（注意）	校内の職員*は10分おきにナウキヤストを確認する。	1	校内の職員*は10分おきにナウキヤストを確認する。
			2～4	屋内退避	体育主任は10分後にナウキヤストを確認し、状況に応じた対策を行う。	2～4	校内の職員*及び体育主任は10分おきにナウキヤストを確認する。活動度2以上で屋内退避を行う。
体育の授業（プール）	体育主任	授業30分前	0	活動可	校内の職員*は30分おきにナウキヤストを確認する。	0	校内の職員*は30分おきにナウキヤストを確認する。
			1	活動可（注意）	校内の職員*は10分おきにナウキヤストを確認し、活動度2以上になる場合はプールの職員に知らせる。	1	校内の職員*は10分おきにナウキヤストを確認し、活動度2以上になる場合はプールの職員に知らせる。
			2～4	屋内退避	プールへ行く教員は、スマートフォンを携帯し、10分おきにナウキヤストを確認する。 活動内容を変更する。	2～4	プールへ行く教員は、スマートフォンを携帯し、10分おきにナウキヤストを確認する。 校内の職員*は10分おきにナウキヤストを確認し、活動度2以上になる場合はプールの職員に知らせる。 プールへ行く教員は、スマートフォンを持って行き、10分おきにナウキヤストを確認する。活動度2以上で屋内退避を行う。
屋外の部活動（平日）	屋外の部活動顧問 （年長者）	活動10分前	0	活動可	校内の職員*は30分おきにナウキヤストを確認する。	0	校内の職員*は30分おきにナウキヤストを確認する。
			1	活動可（注意）	校内の職員*は10分おきにナウキヤストを確認する。	1	校内の職員*は10分おきにナウキヤストを確認する。
			2～4	屋内退避	該当部顧問は10分おきにナウキヤストを確認し、状況に応じた対策を行う。なお、下校30分前の雷活動度が2以上の場合には、生徒から保護者へお迎えのお願いの電話を入れる。	2～4	活動を見合わせ、屋内退避。下校30分前の雷活動度の予想が2以上の場合は、生徒から保護者へお迎えのお願いの電話を入れる。
屋外の部活動（休日）	各顧問 （当日の指導者）	活動30分前	0	活動可	天気の高気圧等に気を付け異変を感じたら雷ナウキヤストを確認する。	0	校内の職員*は30分おきにナウキヤストを確認する。
			1	活動可（注意）	該当部顧問は10分おきにナウキヤストを確認する。	1	校内の職員*は10分おきにナウキヤストを確認する。
			2～4	中止の連絡	その日の活動を中止とし、部員（各家庭）にその旨を連絡する。	2～4	該当部顧問は10分おきにナウキヤストを確認する。活動度2以上で屋内退避を行う。
★校外学習 （屋外での活動部分）	該当学年主任	活動10分前	0	活動可	天気の高気圧等に気を付け異変を感じたら雷ナウキヤストを確認する。	0	学年主任は30分おきにナウキヤストを確認する。
			1	活動可（注意）	学年主任は10分おきにナウキヤストを確認する。	1	学年主任は10分おきにナウキヤストを確認する。
			2～4	代替の活動へ	その活動を中止とし、代替の活動へと切り替える。	2～4	学年主任は10分おきにナウキヤストを確認する。活動度2以上で屋内退避を行う。
希珠祭体育の部練習	生徒会顧問	活動10分前	0	活動可	校内の職員*は30分おきにナウキヤストを確認する。	0	校内の職員*は30分おきにナウキヤストを確認する。
			1	活動可（注意）	校内の職員*は10分おきにナウキヤストを確認する。	1	校内の職員*は10分おきにナウキヤストを確認する。
			2～4	屋内退避	生徒会顧問は10分おきにナウキヤストを確認し、状況に応じた対策を行う。活動度が2以上の状態が続いたら別の活動に変更する。	2～4	校内の職員*及び生徒会顧問は10分おきにナウキヤストを確認する。活動度2以上で屋内退避を行う。
希珠祭体育の部・閉祭式	生徒会顧問	活動10分前	0	活動可	校内の職員*は30分おきにナウキヤストを確認する。	0	校内の職員*は30分おきにナウキヤストを確認する。
			1	活動可（注意）	校内の職員*は10分おきにナウキヤストを確認する。	1	校内の職員*は10分おきにナウキヤストを確認する。
			2～4	屋内退避（体） 会場変更（閉）	体育の部・生徒会顧問は10分間隔で最大30分後まで雷ナウキヤストを確認する。30分で活動度が1にならない場合は順延とする。	2～4	校内の職員*及び生徒会顧問は10分おきにナウキヤストを確認する。活動度2以上で屋内退避。以降は左に従う。
下校	校長	下校30分前			別に定める ※P9 (3)生徒の下校についてを参照		

★校内の職員とは、校長・教頭・職員室に在中の職員（優先順位もこの順）
★校外活動の屋外での活動について、学年主任は要項に雷の危険がある場合の案を考え記しておく。

(2) 落雷・竜巻等突風の予兆を察知したら……

次の4つの予兆を察知したら、次の行動に即時移る。

① 雷鳴が聞こえる



雷鳴が聞こえる範囲は10km前後ですが、地形や風向きの影響を受けます。

一方、雷雲の大きさは直径10km程ですが、いくつかの雷雲がまとまっていると20~30km、寒冷前線付近で細長く雷雲が連なっていると、幅20km、長さ100kmになることもあります。

その雷雲が放電すると稲妻が走ります。稲妻の長さは平均7kmですが長いものになると10~15kmになります。稲妻は雷雲のどこからでも走ってくるので、雷が聞こえる範囲にいれば、次の瞬間には自分に落ちる可能性があります。

結論：雷鳴が聞こえたら即、屋内に退避する。

② 大粒の雨が降ってくる



小粒の雨を降らせるのは、乱層雲という雲、いわゆる雨雲です。長くシトシトと降る雨です。

一方、大粒の雨を降らせるのは積乱雲という雲、いわゆる雷雲です。強い上昇気流がある背の高い積乱雲の中では、大粒の雨が降るため、短時間で強い雨が降ります。

つまり、大粒の雨は雷が鳴る合図とも言えるのです。

結論：大粒の雨が降ってきたら即、屋内退避する。

③ 冷たい風が吹いてくる



積乱雲がどんどん成長すると、強い雨とともに上空の冷たい空気が降りてきて、これが地面にぶつくと冷たい風となって周囲に広がります。

つまり、冷たい風は積乱雲接近の合図と言えるのです。

しかし、山梨県で冬季に吹く風「ハケ岳おろし」のように、冷たい風の原因が積乱雲ではない場合も考えられます。

また、「冷たさ」の感じ方は人それぞれで個人差も考えられます。

そこで、「冷たい風が吹いてきた」と感じたら、雷ナウキャストで雷の活動度を必ず確認しましょう。

結論：冷たい風を感じたら雷ナウキャストを確認

④ 黒い雲が広がり暗くなる



雨を降らすような雲の中には水滴がたくさんあるため、雲が光をさえぎって黒っぽく見えます。大きい水滴のある雨雲は特に黒っぽく見え、急に大粒の雨が降ってくるのが予想されます。

しかし、積乱雲であろうが乱層雲であろうが太陽光を透過できない程分厚い雲であれば、雲底は黒く見えます。

よって、黒い雲が広がって暗くなった場合はそれが積乱雲であるか

を確かめるために雷ナウキャストで雷の活動を必ず確認するようにしましょう。

結論：黒い雲で暗くなったら雷ナウキャストを確認

上の2つは屋内退避！

下の2つは雷ナウキャストを確認！

(3) 生徒の下校について

下校時間30分前（正確には30分前の雷活動度に更新される下校25分前）、以下の3つの状況であった場合は、以下の様な安心・安全メールを保護者に送信する。

- ※下校時間の設定が学年ごとに違う場合に以下の状況が起きた場合は、対象となる学年のみの対応とする。
- ※通院や社会体育に所属している等で同学年の生徒と下校時間が異なる生徒については個別対応とする。

① 雷鳴が聞こえる。

パターン①：30分前に雷鳴が聞こえた場合

保護者の皆様へ — 悪天候による生徒の下校に関わるお願い —

先程、雷鳴が聞こえました。
三珠中学校では雷鳴が聞こえた場合、安全確保のため、最後の雷鳴から30分間、生徒を屋内に待避させる指導を行っています。
現段階で、まだ下校していない生徒につきましては、生徒から電話をいれさせていただきますので、お迎えが可能なご家庭につきましてはお迎えをよろしくお願いいたします。
落雷の危険がある状況につき、お車は他の車に気をつけていただきながら、中学校校門前までお進みください。
なお、連絡がつかない家庭の生徒につきましては、安全が確認されるまで学校にとめおきますのでご了承ください。

② 雷ナウキャストの雷活動度が2以上の場合

パターン②：30分前の雷活動度が2以上の場合

保護者の皆様へ — 悪天候による生徒の下校に関わるお願い —

只今、三珠中学校付近の雷活動度を確認したところ『●』であることを確認しました。三珠中学校では、雷活動度が2以上だった場合、安全確保のため生徒を屋内に退避させる指導を行っており、先程、生徒を屋内に退避させたところです。
現段階で、まだ下校していない生徒につきましては、生徒から電話をいれさせていただきますので、お迎えが可能なご家庭につきましてはお迎えをよろしくお願いいたします。
落雷の危険がある状況につき、お車は他の車に気をつけていただきながら、中学校校門前までお進みください。
なお、連絡がつかない家庭の生徒につきましては、安全が確認されるまで学校にとめおきますのでご了承ください。

③ 雷ナウキャストの下校時刻の雷活動度予想が2以上の場合

パターン③：下校時刻の雷活動度の予想が2以上の場合

保護者の皆様へ — 悪天候による生徒の下校に関わるお願い —

本日の下校時刻●時●●分の三珠中学校付近の雷活動度の予想を確認したところ『●』であることを確認しました。
三珠中学校では雷活動度が2以上だった場合、安全確保のため生徒を屋内に待避させる指導を行っています。只今の予想によると、下校時間の頃、生徒を屋内退避させ学校にとめおく可能性が出てきています。
そこで、現段階で、まだ下校していない生徒につきましては、生徒から電話をいれさせていただきますので、お迎えが可能なご家庭につきましてはお迎えをよろしくお願いいたします。
落雷の危険がある状況につき、お車は他の車に気をつけていただきながら、中学校校門前までお進みください。
なお、連絡がつかない家庭の生徒につきましては、安全が確認されるまで学校にとめおきますのでご了承ください。

- ※30分前には上の3つに当てはまらなくても、その後、上の3つに当てはまる状況になった場合は、上と同じ対応を取るものとする。

(4) 防災学習(雷から身を守る方法)

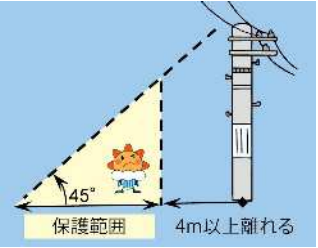
これまでの対策と並行して、生徒自身が自分の身は自分で守ることができる知識や力の育成にも積極的に取り組んでいく。

以下のことを毎年1回は、『学活』・『生徒集会』・『お便り』等で取り上げ、生徒に「雷から身を守る方法」を身につけさせる。

① 予兆 → 前ページの4つの落雷・竜巻等突風の予兆についての学習をする。

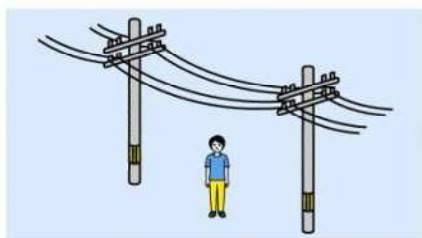
② 屋外で活動中に予兆を察知したときの行動

予兆の程度が顕著である場合は、緊急に以下の行動を取る。

活動の状況	取るべき行動
学校内(教師がともなう校外活動)	原則、先生の指示に従い、速やかに屋内に避難する。
安全な場所が近くにある 安全な場所とは、 建物の中 自動車の中 バスの中 電車の中 等のこと	◇直ちに安全な場所へと退避する。 ・自宅の近くであったら、急いで帰宅する。 ・自宅が遠ければ、知り合いの人の家が近くにあれば事情を説明して避難させてもらう。 ・自宅が遠く、知り合いの人の家がなければ、見知らぬ人の家でも事情を説明して避難させてもらう。
登下校中や休日等の学校外での活動中 安全な場所が近くにない ◇開けた場所にいる。 開けた場所とは、 ゴルフ場 グラウンド キャンプ場 海岸等 等のこと	◇開けた場所から離れる 開けた場所では人に落雷しやすく要注意 釣り竿や金属バットなどを高く突き出さない 
◇電柱・煙突・鉄塔等の高い物体が近くにある。	◇その物体のてっぺんを45度以上の角度で見上げる範囲で、その物体から4m以上離れたところに避難する。 
◇高い木が近くにある。	◇最低でも木のすべての幹・枝・葉から2m以上離れたところに避難する。 

活動の状況	取るべき行動
登下校中や休日等の学校外での活動中 安全な場所が近くはない ◇自転車に乗っている。	◇すぐに自転車から降りて、安全な場所へ避難する。 ※できれば、自転車は公共の妨げとならない場所へ置く。
◇軒先や外壁の近くにいる。	◇軒先や外壁の近くは、雷の通り道となるので、大変危険です。他の安全な場所へ避難しましょう。
◇どこにも安全な場所がない……	◇最終手段は下の様な「雷しゃがみ」をする。 最終手段は「雷しゃがみ」

☺**知っておくと得情報** もしも逃げ場に困った時に電線があったら、電線の下で「雷しゃがみ」が有効です。



**電線の下は低リスク
避雷針の役割を果たします**

③活動の再開の目安

◇「雷鳴後、30分経っても次の雷鳴が聞こえない」のが、活動再開の目安となります。

◇雷ナウキャストを確認することができる場合は、そちらを優先する。(活動度2以上なら、活動再開しない。)



④もしも電撃を受けてしまったら……

◇万が一、電撃を受けてしまった人を見かけたら、まず救急要請(119番)をし、直ちに心臓マッサージをする。



◇AEDが近くにある場合は、すぐにAEDを取りに行き、使用する。

*2次被害に遭わないように、AEDの操作、心臓マッサージは必ず安全な場所で行うこと。

トピックス

～電気を通しやすい物=危険

電気を通しにくいもの=安全 とは限らない～

落雷に対する十分なデータがなく、また、実験等による検証が行えなかった時代には、金属製品を身につけていると落雷に遭いやすいという誤った認識が一般化されていました。これは、落雷で死亡した人が身に着けていた金属や衣類の金属が溶けていたり、金属に触れている部分の皮膚が著しい熱傷(やけど)を負っていたことから生じた誤解です。

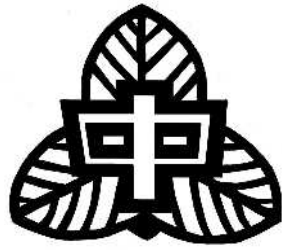
現在では、身につけた金属製品には、人体を流れる電流値を減らす一定の効果(=ジッパー効果)があることが、事故の実例や実験により確かめられています。ただし、傘やゴルフクラブなどを頭より上に掲げることは、雷を誘引するため論外です。



同じく、身につけた長靴やレインコートなどのゴム製品に安全効果があるというのも誤った認識であることが立証されています。雷の高電圧に対し、ゴム製品の絶縁効果は皆無であることが確認されています。

《参考文献等》

- ・気象庁「発達した積乱雲による災害・事故から児童生徒を守るために ～学校における防災管理・防災教育にご活用ください～」
- ・(株)フランクリン・ジャパン 雷(らい)ぶらり
- ・(株)サンコーシヤ 雷から身を守るには
- ・NHK #NHK防災これだけは
- ・Yahoo!JAPAN Yahoo!ニュース



市川三郷町立三珠中学校